



高田 晃太郎

推しの本 ②

『ロバのスーコと旅をする』

高田 晃太郎 (著)
出版社 / 河出書房新社

高田 晃太郎 1989 年生
北海道大学卒業。北海道の新聞記者を経て、スペイン巡礼で歩く旅の自由さに触れる。遊牧民にロバの扱い方を教わったことを機に、ロバと旅する。

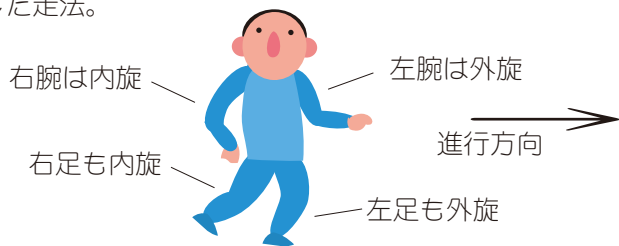


13万フォロワーを有し、SNS で発信を続ける「太郎丸」こと高田晃太郎の 1 作目。ロバと歩いて旅をする、その舞台に選んだのは中東 - イラン、トルコ、モロッコです。「大丈夫なの？」と心配になります

が、こちらの予想通り、道中散々な目にあいます。ときにコミカルに、しかし一貫して抑制的につづられる記録には、達観した世捨て人のような独白が混じります。しかし、本書を文学足らしめるのは、語らないことによって語る筆力、そしてときおり顔をにぞかせる著者の人間臭い一面でしょう。ロバ、徒歩、中東、そして沢木耕太郎をほうふつとさせる簡潔な文体。著者はこれらの素朴な材料をつかって壮大な文学作品をつくった、と感じました。2024 年、優れた紀行文を表彰する「第 9 回齊藤茂太賞」選考委員特別賞を受賞。添えられる写真も、絵葉書のように美しく、おすすめです。

江戸走り ちまたでバズっている話

江戸走りは、大場克則氏が文献を基に再現・考案した身体を脱力させ半身で横向きに走る。令和に SNS で大流行した走法。



今回の江戸走りは、忍者がおこなっていた様々な歩き方の再現をイメージしたものとか。

この横走りのコツは、まず半身の姿勢を作ります。そして左に走る場合は、左足、左腕を外側に回し。右足、右腕を内側に回すことがコツなのだとか。

現代の走り方は手足を前後に振りますが、江戸時代は手足を内側、外側へと回して走るところが異なるポイントだそうです。さらに身体が倒れる重力を使って走るので、力を抜くほど速くなる特徴があります。またこの横走りは筋力に頼らないので年齢を重ねても走れる可能性があることが挙げられています。

中村寿子さんの『暮らしを科学する』 No.158

—— すてきな生物たち ——
《面白・仰天昆虫 その3》

カブトムシ



ボールペン

南米に生息するヘラクレスオオツノカブト。ギリシャ神話の神の名をもらったこの種類の大きさをボールペンと比べてみました。希少な種類として高額で取引されているとネットにありましたが、とんでもない！学術目的以外では生息地から持ち出しはダメ！

トゲアシフトナナフシ



ボールペン

トゲアシフトナナフシは、ニューギニア産の色は薄茶色から黒、樹皮や腐った木の色に似ています。翼がなく、体と足に棘があります。オスは小さくて薄く、長さは9~10cm、メスは通常14cmくらい。展示されている標本とボールペンを比べてください。こんな虫に出会うとゴキブリ以上にドッキリものです。

今年のお花見予報

開花は平年より速いところが多くなるそう。
さくら開花前線が大阪は3月23日予定！

- 霜に耐え 春を信じて 花支度
- つかの間の 平和をくれる 梅桜
- 花粉症 だからお花見 テレビでいい
- 満開に 花より団子 よりお酒
- お花見に お団子持って行く おばあちゃん
- お花見と 徘徊見ぬく 視線位置
- 花見酒 いきなり下戸が 歌い出す
- 飲まぬやつ 弁当食うと 花にあき
- 花見酒 許すと医者のお墨付き
- 花見酒 飲めば死をいう 女居て
- 酒なくて 見れば桜も 河童の屁
- 桜散り 歩道ピンクの ドット柄

桜餅の葉っぱは食べる？！

桜餅の葉っぱは食べても食べなくてもどちらでも良い無理に食べる必要はない。食べるとう塩味と香りが楽しめ、外すと桜餅そのものの風味が味わえる。葉っぱには殺菌効果や保湿の役割があるので、食べる直前まで巻いておくのが良いです。